



中国国際青年交流中心
China Youth Center For International Exchange

尊敬の日本友愛協会 常務理事 川手正一郎先生:

中国国際青年交流中心青年幹部訪日団が順利完成訪問行程、平安回国。

此次出訪貴国、是我就任中国国際青年交流中心、中日青年交流中心主任后的首次出訪。虽然訪問日程紧张、但收获很大。通过我们真诚的交流与沟通、对我两机构继续开展务实交流、组织更多的中日青少年围绕文化、艺术、教育、体育、科技、经贸、环保等领域进行广泛交流与合作达成了共识、访问取得了预期效果。

在日期间、受到常务理事川手正一郎先生等贵协会有关人士的周到安排、在此谨表谢意!并请转达我对协会各位朋友的诚挚问候!

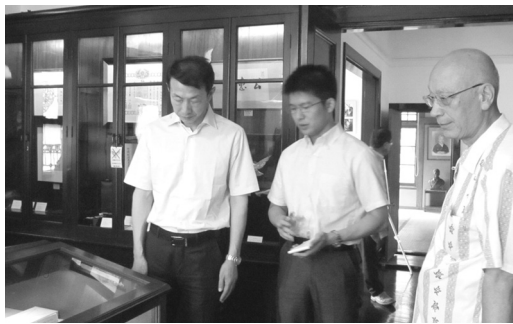
期待着以此次访问为契机、通过贵我两方密切沟通和共同策划、进一步深化双方的交流与合作、为推动中日两国青少年的交流事业作出我们的努力。

祝贵协会各项事业蓬勃发展!

中日青年交流中心青年幹部訪日団团长
中国国際青年交流中心主任
中日青年交流中心主任
二〇一四年七月二十九日

中国 北京 100125
中国国際青年交流中心
北京市朝阳区三里屯
电话(Tel): (86-10)64663331
China Youth Center For International Exchange
No.40 Liang Ma Qiao Lu Chaoyang District
Beijing 100125, China
电 话(Tel): (86-10)64663331

孫俊波主任よりの感謝状



日本友愛協会が力を入れる国際交流事業は、本年度事業計画にもミャンマー指導者育成プロジェクトを始め、国際写真コンクール、オーストラリア派遣など多くの事業が計画されている。それらの活発な活動はエネルギーとなって新たな活動へと結びついていく。七月には中華全国青年連合会・中国国際青年交流中心の孫俊波主任一行五名の方々が日本友愛協会を来訪された。

今回の来日は、一般財団法人日本青年会の招聘によるもので、スケジュールの合間をぬって、当協会への来訪となった。

七月二十五日(金)、中国国際青年交流中心の孫俊波主任一行五名の方々が日本友愛協会を来訪された。一行は鳩山会館を訪問、川手正一郎常務理事との面接を、鳩山会館のテラスで行った。

中国国際青年交流中心と当協会は、植林事業を通じて二十余年に及ぶ交流の歴史がある。その他にも、折に触れ交流が続いている友好団体で、今年度の国際写真コンクールでも互いに協力

日本友愛協会

国際交流事業

活発に進展

中国国際青年交流中心 孫俊波主任

北京理工大学日本言語文学部 周晨亮学部長

来訪

新たな交流の機会について意見交換

友愛

題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(一財)日本友愛協会

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 小石川文芸ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@yuaiyokukai.com

http://yuaiyokukai.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

流中心主任・李悦／二十一世紀ホテル総経理・梁健／二十一世紀ビル経営部・李偉／秘書長・潘明宇／通訳

北京理工大学日本言語文学部 周晨亮学部長来訪

七月二十九日(火) 北京理工大学日本言語文学部の周晨亮学部長が来訪、鳩山会館見学、川手正一郎常務理事との面談の後、鳩山由紀夫理事長と面談し、新たな交流事業についてなど、一歩進んだ話し合いが行われた。

懇親食事会の席で。写真左端孫俊波主任

北京理工大学日本言語文学部とは、第二十三次植林訪中の際、日本側大学生との交流の機会を作っていたが、講義の時間を割いて「日中大学生の今日」、さらには「日本友愛協会について」と二つの題で講演する事が出来た。縁がある。

今回周学部長からは、前回の経験を基に、更に進んだ交流を行いたいとの申し出があり、鳩山由紀夫理事長も「貴重な時間をいただき、満面の笑顔で納まった」。

この報告を受けた第二十八回理事会は、次年度事業として「北京理工大学及び中国国内大学に於ける友愛普及活動事業」(仮題)を検討することを決議した。

中国国内の有名校は三十一校あり、内七校が北京市内にある。北京理工大学は、その中で常に二、三位に位置づけられる有名校である。そこでの「友愛講義」さらには周辺の大学を交えての交流は、当協会にとって、友愛の理念を伝える有効な好機となることだろう。

毎年のように「異常気象」が続く、この頃ではどんな気候が「正常」だったのか、わからなくなるほどである。今夏も日本各地で「これまでに経験したことのないような」気象が続いた。▼とりわけ多くの犠牲者を出した広島の大規模な土砂崩れは、人間の生活環境をあっけなく破壊する自然の猛威を改めて我々に見せつけた。行方不明者の捜索に難航する広島の新ニュースにかき消されている感もあるが、大雨による洪水や雷、竜巻によるから立ち直っていない地域も多い。▼京都北部の福知山市は昨秋の台風による洪水の記憶も冷めやらぬ中、今夏の豪雨でも市中心部を水没させるほどの洪水被害を出した。昨夏の花火大会で露店が爆発事故を起こし死傷者を出して以来、災難が続いている。▼消防団に入っている義兄もそのたびに大忙しである。今夏の水害の際には、まず落雷によって電線が切れ一、九番がつながらないという広報活動から始まったそうだが、どのみち大規模な災害時には殺到する一、九番通報を捌くのは非常に難しい。一人暮らしのお年寄りや目の不自由な人などは、隣人からの通報で救助に駆け付けたという。高齢化・単身者が進む日本では、災害が起こる度に救助の難しさが浮き彫りになる。消防署員と一緒に災害対策を担う消防団の側も、慢性的に人手が足りない状況は深刻化する一方である。▼福知山を流れる由良川の氾濫は昔からこの土地を悩ませてきた。一般的には「逆賊」として不人気な明智光秀がかの地で慕われ続けるのも、治水事業に大きな成果を挙げた善政が理由という。少子高齢化の中で如何に災害に強い社会を築くか、為政者の手腕がもつとも問われる場面である。(ヒゲ)

友愛時評

軽井沢友愛山荘

国際交流に 研修合宿に

大活躍!!

パオ展示室完成 民族衣装を展示 新設キッズルームも大好評

軽井沢友愛山荘は、夏休みの時期を迎え連日満室状態の盛況を呈している。今夏の特徴は、何といても「友愛ホール」の活躍にある。ゼミ合宿を始め、様々な団体が友愛ホールを利用しての宿泊をされている。また「上海理工大學二〇一四夏期訪日研修団」「ミャンマー指導者育成プロジェクト」など、国際交流事業実施の場としての活躍が特筆される。友愛山荘に宿泊された方々の声とともに、友愛山荘の活況ぶりを報告したい。

茨城県一葉会 友愛ホール
で「友愛セミナー」
茨城県下妻市で活動する
一葉会（いちようかい・大倉勇会長）は、七月十三日（日）より一泊二日の日程で軽井沢友愛山荘にて研修懇親合宿を実施した。また、友愛ホールにて、「日本友愛協会：友愛について」の友愛セミナーを開設、参加者全員が友愛についての理解を深める時間を持った。

一葉会の笑顔
入梅の合間の太陽が眩しいばかりの朝、私達一葉会は大倉会長他二十名で、友愛山荘に向かって快調に下妻を出発しました。

皆さんの笑顔の写真とともに
お届けします。

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ

「ようこそ！」と迎えてくださって、そのお声に酔いも醒めて、「ああ友愛のやさしい目だなア」と思っ



鳩山由紀夫理事長ご夫妻と山荘スタッフ一同。ミャンマーの研修生も加わって賑やかな記念撮影



一葉会の皆さん
出発の朝、銅像の前で記念撮影
見事な一首ができました（本文）



小沢鋭仁衆議院議員（左端）も友愛山荘をご愛用くださる常連さん。到着した研修生と記念写真



井口ゼミの学生を前に、鳩山由紀夫理事長が「友愛」をテーマに講演。皆熱心に聞き入っていた



陽のあふれる芝生の庭で、参加者全員記念撮影。元氣、若さが一段と輝いてー井口ゼミ



鳩山由紀夫理事長をお見送り。横断幕、鳩の絵、弾ける若さに理事長も終始笑顔



井口典夫教授（左）と芝生の庭で鳩山由紀夫理事長。「友愛について」を話題に話が弾んだ



上海理工大學食事風景。先生も生徒も一緒になって会話を楽しみ、食事を楽しむ

青山学院大学井口ゼミ 恒例の友愛山荘合宿

青山学院大学井口典夫教授は、毎年春と夏に担当の総合文化政策学部井口ゼミの学生を友愛山荘へ誘い、ゼミ合宿を実施している。さらには、友愛山荘に隣接する土地を購入し、軽井沢友愛まちづくり協議会（仮称）を設立し、軽井沢のまちづくりをライフワークにされる予定で、自らもおっしゃる通り「どっぷり友愛に浸かっています」という状況である。友愛を熱心に勉強し、学生に説く井口教授の熱意に伝えるかたちで、鳩山由紀夫理事長が、学生との交流、講演を行った。講演内容（抜粋）は次号に掲載いたします。（日本友愛協会HPに先行掲載）

夫理事長を迎え、参加学生との交流の機会をもった。何偉銘（か・いめい）上海理工大學日本文化交流センターセンター長、工藤園子名誉センター長、王俊紅（おう・しゅんこう）日本語学科助教授の三名の先生方とともに、友愛山荘を訪れた一行は総勢四十二名。七月二十三日日本到着以来の疲れもみせず元気に山荘に到着した。緑の芝生と掃除の行き届いた部屋に、きれい！の声があがった。

友愛山荘での全員揃っての賑やかな食事、本物のパオを体験、鳩山由紀夫理事長との交流など、沢山の思い出とともに八月四日、友愛山荘を後にした。一行はその後、国会議事堂見学、JAXA見学、中央大学理工学部訪問、日本企業見学、富士山、富士山麓にて温泉体験、東京国立博物館見学等々盛りだくさんのスケジュールをこなし、八月二十二日（金）に帰国の途についた。

モンゴルの民族衣装が展示されているパオ内部。色鮮やかな衣装が、パオの中で輝いている



上海理工大學の学生さんは、元氣もあり、食欲旺盛。理事長も一緒に夕食を楽しみ



ミャンマー

指導者育成プロジェクト

多くの協力者を得て順調に研修進む
北海道で様々な体験 元気に友愛山荘へ



鳩山由紀夫理事長夫妻と面談。友愛山荘にて、二週間の予定で山荘での研修・交流が始まった

ミャンマー指導者育成プロジェクトで来日したサン・マウンさんとウィン・ナインさんの二人は、7月11日から北海道へ渡り、大規模農業、牧場などでの実習研修を開始した。北海道の多くの方々の協力を得、各地に数日間ずつ滞在、交流とともにソバを食べたり、海を見たりと貴重な経験の日々を過ごした。今号では研修内容と受け入れてくださった方々の感想を写真と共にご報告し、次号にて研修生の感想を含め、総合報告をお届けします。

7月11日から17日まで

ご協力／農業法人コスモス（安藤登美子代表取締役、北海道上川郡清水町御影）

研修内容／コスモス牧場で飼育している肉牛用子牛の哺育を中心に研修を行った。具体的には、ミルク、水、えさを他のスタッフとともに与えた。7月13日、帯広市内で開かれていた国際農業機械展見学。会場には最新鋭の機械が紹介されていたことから、閉会間際まで会場を廻り、しくみや働きを学んだ。このほか、実際の研修以外に、温泉に入ったり、寿司を食べるなど、日本文化も体験させてもらった。コスモスで育てた和牛の食事楽しんだ。最終日の出発間際、研修生2人は、お世話になったスタッフの方々に、つたない日本語だったが、自分たちで考えたお礼の言葉を述べた。

＝安藤登美子代表取締役の感想＝

外国の方を受け入れたのは初めて。無事に研修を終えてもらってほっとしています。滞在中は、仕事だけでなく、なるべく日本の文化にも触れてもらおうと、温泉など体験してもらいました。2人とも、食事は、好き嫌いなく食べてくれました。食器の後片付けも、積極的に手伝ってくれました。

7月18日から31日まで

ご協力／北海道ホープランド（妹尾英美会長、中川郡幕別町相川）

塚本清音様（自治体農ネットワーク代表）小野豪大様（通訳兼務）

研修内容／ブロッコリー、ジャガイモなどの収穫や、ニンジンの手入れ、採れた野菜の成形、箱詰め作業などを体験。22日 塚本様、小野様の案内で、JA帯広かわにしの長芋選果施設、十勝農業試験場、北海道農業大学など十勝管内の農業関係施設を終日見学した。27日夜、スタッフとともにバーベキュー。第二次世界大戦当時、日本軍がミャンマーで作戦を行っていた話などで盛り上がった。

＝妹尾英美会長の感想＝

「年齢が思ったより高かったので、途中、少し疲れが出たようでした。このような研修は、もっと若い人のほうが、今後のミャンマーの農業の発展のためにもいいのではないのでしょうか。指導する側としても、対応が少し難し

いと感じました。ただ、年齢が近いので、一緒に酒を飲んだりした時は楽しかったです。第二次大戦当時、日本兵がミャンマーに大勢いたが、それについてミャンマー人が好意的に感じているということを直接、彼らの口から聞いたこともうれしかったです」

＝塚本清音代表の感想＝

「研修目的が、事前に、もう少し具体的になっていれば、さらに多くのことを学ぶことができたかもしれません。また、日本語を、もっと理解できるように学んできてもらえば、2人にとっても、よかったのではないのでしょうか。課題はありますが、今回の研修は、彼らにとってよかったと考えています。今後もこういう機会があれば、積極的に協力したいですね」

8月1日から7日まで

ご協力／宿泊施設「ひまわり」（北海道空知郡上富良野町）入江優様、内田透様ほか町民の方々

研修内容／1日午前10時半、徳永エリ参議院議員とともに、ホープランド出発。途中、道の駅で、そばを初体験。トリックアート美術館見学。2日「フラワーランドかみふらの」で花畑の手入れ体験。3日午前、ヘリコプターからの農業散布の様子を見学。その後、かぼちゃの収穫体験4日 ジャガイモの収穫と選別作業体験。5日午前 JAの麦の乾燥施設見学。その後、岩崎治男・上富良野町議会議員の案内で田んぼや、刈り取った稲の乾燥施設見学。田植え機、コンバイン、モミまきのための機械なども紹介してもらった。その後、ため池設備も見学した。午後、ジュース、ワイン、チーズなど農産物加工工場数か所と、豆の調製工場見学。6日 ジャガイモ選別作業。夜は、町の盆踊り見学。7日 空港への途中、旭山動物園見学。

＝入江優さんの感想＝

言葉の壁はありましたが、なんとなく、コミュニケーションをとることができました。今回は、突然のことで、こちらも十分な体制をとることができなかったと思います。しかし、次の機会では、現地の情報なども得て、事前に準備した上で受け入れられるといいのではないかと、思っています。そうすれば、より幅広い協力も得られ、充実した研修が期待できます。また、研修時期については、例えば米の場合、田植え前の準備期間から始めると、より深く理解してもらえるでしょう。学んだことを、現地でモデル地域を作り、実践してもらえれば、より成果が出ると考えます。

外国人の農業研修は、初めてだったので、正直、疲れもありますが、とても楽しかったです。今後、ミャンマーのどこかの市や町と上富良野が友好都市のような関係にまで発展するといいな、とも思います。

記：山本一恵（研修報告より抜粋）



多大な協力をいただいた徳永エリ参議院議員（写真右端、妹尾英美さん（写真左から二人目）と



コスモス牧場の皆さんと（写真右から四人目安藤登美子さん）沢山の貴重な体験をさせて頂いた



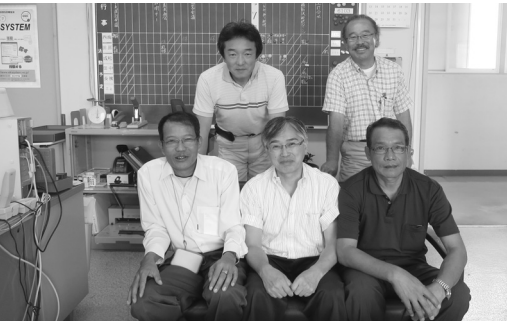
上富良野の内田さん（写真右端内田ご夫妻）のお宅で、カボチャの収穫、箱詰め作業を体験



移動中の道の駅にて「日本ソバ」を初体験。上手にすることが出来ました。日本ソバは美味しいと



コスモス牧場での初日。子牛をケージに誘導。初めての経験にも拘わらず、果敢に挑戦しました



農業試験場で。（写真後列左田中義則さん。写真前列中央西海豊頭さん）と記念撮影



農業大学を見学。白長靴に白衣、ご案内くださった先生（写真中央）と小野豪大さん（写真左端）と



安藤さんの息子さんが経営するお店でソフトクリームに舌鼓。ミルクが濃くて美味しいと大感激



日本の海が見てみたくて。塚本さん（写真中央）のご案内で海まで出掛けました

公益社団法人日本けん玉協会主催 けん玉ペインティングコンテスト

日本友愛協会賞受賞者表彰

八月二十四日（日）東京池袋のサンシャインシティ噴水広場に於いて、第十二回けん玉ペインティングコンテストの表彰式が開催された。

けん玉協会は、本年四月より公益社団法人に移行し、正に日本のけん玉文化、けん玉道を伝え、継承する役割を公的に担った団体としての活動を開始した。

その記念すべき本年度の大会は、全国から三六〇〇点に及ぶ作品が寄せられ、審査員の先生方も審査には大いに悩ませられたとコメント。

紙に描いた作品から二〇〇点に絞り、実際に白木のけん玉にペイントする。それらの作品から、けん玉の形の特性を活かしている、メッセージ性があるなど、様々な審査基準で二十点に

易君が受賞した「日本友愛協会賞」の賞状。それぞれの受賞作品が描かれているユニークな賞状である

賞状

日本友愛協会賞
易 幸瑛 殿
あなたは公益社団法人日本けん玉協会主催
文部科学省後援の
第十二回けん玉ペインティングコンテストにおいて
優秀な成績を収められましたので
ここにこれを賞します。

平成二十六年八月二十四日
一般社団法人日本友愛協会
理事長 嶋山由紀夫
公益社団法人日本けん玉協会
会長 松永義希

絞り込み、受賞作品が決まる。今年度の文部科学大臣賞は、十一歳の河田みりのさんが受賞した。

日本友愛協会賞は、六歳の易幸瑛君が受賞。トンボが池に卵を産み、ヤゴとなり、大きなトンボになっていく様子を、けん玉の面を使って表現した見事な作品である。成虫のトンボは、球の部分に描かれており、球が動くときまるでトンボが飛んでいるかのように思えることだろう。

易君の通う清明学園は、けん玉ペインティングに力を入れており、過去にも文部科学大臣賞受賞者を数名輩出している。今年の受賞者河田さんも清明学園の生徒である。

当協会からは、川手正一郎常務理事が出席、賞状の授与を行った。

笑顔で作品の話をする易君に、川手常務理事も顔をほころばせて賞状を手元に記念撮影

友愛 ほんだな

樋口恵子さんが推薦する『活き逝き術のススメ』—ニューシニアは語る

るのが「介護」。介護する側も、介護される側も高齢者、いわゆる「老老介護」が当たり前の社会が、来るではなく来ている。

介護は、する側もされる側も、それぞれ問題を抱えている。何の苦労もなく介護しているとか、一から十まで大満足で介護されているという例は、無いと言っても過言ではない。

本書は、二人の著者も語っている通り、介護する側の苦労話ではなく、「介護される側の声」を集めている。正に十人十色の言葉通り、様々な状況の被介護者が登場している。

確かに、介護される側の声は、効率よく、満足度の高い介護を築く上で必要な要件である。コロンブスの卵ではないが、今までこの題材の本が無かったのが不思議なくらいだ。

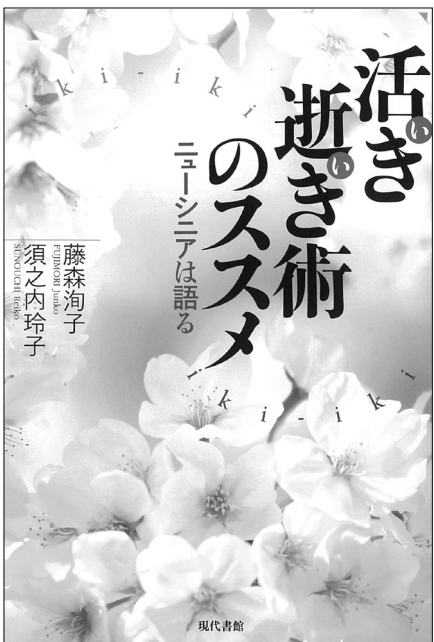
実際に介護等の福祉に永年携わってきた著者だからこそ、目を向けられた分野であると思う。また、高齢の被介護者とお会いし、しかも初対面で話を聞くという作業は、現場を経験していなければ出来ない、思うほど簡単なことではない。そうして実施したインタ

ビューを、系統だててまとめ、コメントを加え問題点を浮き彫りにしていくという作業は、一つの道しるべとして結実した。

被介護者にとっても、介護している側にとっても現状に一石を投じた本書は、一読する価値がある。これから本書を手本に、より多くの実態、現場の声が世に伝えられ、「介護」に対する関心が更に高まり、正しい理解のもとで行われていくことを期待したい。行政に携わる方々にも一読していただきたい書である。

活き逝き術のススメ

ニューシニアは語る



藤森洵子
須之内玲子

（編集部：H）

著者：藤森洵子

須之内玲子

現代書館刊 B6版

並製本 二二四頁

定価 一六〇〇円（税別）

トピック……百合

今月もお花の話題になりました。どちらも百合の花です。

咲いている場所は「軽井沢友愛山荘」の庭。右はタモトユリ、あるいはベルガモという種類ではないでしょうか。白い花と、薄いピンクが入った花が、美しさを競うように咲き誇っています。緑の芝生、大きな木々のもと、大輪の百合の花が沢山咲いている様子は、一見の価値がある、素敵な風景です。今年このように沢山の百合が開花したのは、調理担当の辰巳夫妻の努力の賜です。

左は山荘のベランダの脇に咲いているこちらはクルマユリの仲間でしょうか。オレンジ色の美しい色が、緑の芝生に映えます。芝生の先にはパオが見えています。青と白、オレンジと白のパオ二基も芝生に映えて見応えがあります。この百合は十年選手、先の管理人亀田俊子さんが植えた二つの球根が、毎年花を付け、夏の山荘に彩りを添えています。友愛山荘はこれから順に色々な花が開花します。それが済むと紅葉の季節がやって来ます。

時事川柳

服部迪夫 作

「時事川柳研究会」会長

—W杯予選敗退

勝星が遠い日本の梅雨の空

—開通

つぎはぎの圏央道が脱皮する

—夏台風

台風は海水温に左右され

—「夫婦川柳」上梓

きままるが川柳界に殴り込み

み

—大砂嵐の活躍

土俵上嵐を呼んだエジプト人

—県知事選

沖縄の基地物語ロングラン

—被害甚大

八月の広島に在る欠けた月

編集後記

◆時々教育や教養について考える。小生なりには人間としての考え方や人格と想われるが、昨年十月十日の天声人語には「教育とは学校で習ったすべてを忘れたあとに残るもの」という記述があった。また教養については、フランスの政治家エドゥアール・エリオの言葉として「それはすべてを忘れたときに残るものであり、すべてを習った後でもなお足りないもの」と記してあったが、その真意は何か。要は人間としての生き態そのものがその人の教養？ 解釈はいろいろあると想うが、私はなんとなくそんな感じがする。（K）

◆過日、敬愛するMさんと前号「友愛ほんだな」で紹介された『銀二貫』を話題に話が弾んだ。彼はあのドラマを集約（俯瞰）すると、「粹」という言葉で表現できると言う。「人情では？」の反論に「江戸人情は粋の別表現でしょう」と返す。「あれは舞台大阪だし…」などやり取りが続く。打てば響く答への返る相手のおしゃべりは、究極の生き甲斐。それにしても日本語の妙、感心したり我が身の語彙の少なさを嘆いたり、改めてその素晴らしさを思う。もっと色々勉強しよう！と誓いを心に秘めて笑顔でMさんと再会を約束。物忘れの多くなった自分自身の、力量も忘れて。誓いも約束も忘れないよう、精進、精進。大好きな日本語のために。（も）